

内村鑑三先生

写真帳

I

1876 ~ 1912

ウイリアム・エス・クラーク
1826 ~ 1896



Bog's. be ambitious の敬肅なる一語を殘してアメリカに向う歸途に就かれた。

「イースと信ずる者、折々約を草し十五名の署名を得て感謝満足した。十年四月十六日農農學校を去り、島松に達するや驛頭より見送りの學生に向い、

清隆長官と共に去武丸に乗り北海道に向った。船中、倫理教育の方針につき、長官と大論戦を交わし未決の間に農學校に到着した。爾來専心重責を果すに努め、將に任期満了とするに臨み、

○北米マサチューセッツ州立農農學校長陸軍大佐ウイリアム・エス・クラークは、明治九年(1876)七月日本に



日本

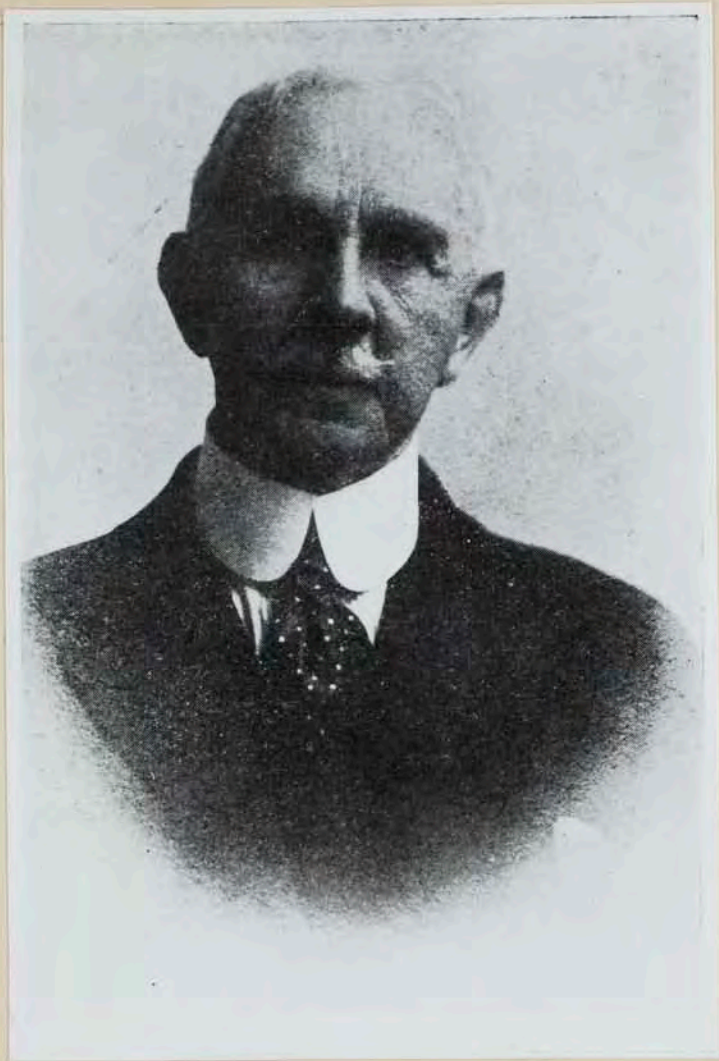
明治十年八月十日

東京之の榎木屋と称する
開拓御用旅館滞在申判
服刺帽を新に支給せられた
の横影。

新渡戸稲造
山崎行親
宮部金吾
内村鑑三



來り(横濱にて英文聖書五十冊を求め)、十名の一期生を引きつれし黒田



デウィッド・シー・ベル

内木才鑑三は1885年(明治十八年二十五歳)白癩院で長ケルリンに伴あるワシントン市に赴く途中鉄道馬車の中で未見の紳士ベル氏と相識り、ワイアードホテルで暫時雑談は別れた。これが縁機となつて緊密なる友人関係を継続することとなつた。氏は内木才より二十ほどの年長者であつた。

内木才は業を終え之北米より帰朝して附して1888年(明治二十一年)六月二十日ベル宛發信第一に始まり1927年(昭和二年)七月九日、終百八十四條に至る三十餘年間の交友の交換であつた。

兩名の會見は鉄道馬車中のそれと1921年(大正十年)七月十九日東京海上陸ベル父子は本館前120の時と只の二回のみであつた。内木才は程井沢り案内は優遇を敢てした。



1878年(明治十一年)頃

札幌農學校時代

第二期生クリスチャン

廣井 勇

竹藤 田九三郎

宮部 金吾

足立 源太郎

太田 稻造
(新渡戸)

内村 鑑三
(十八歳)

佐久間 信恭

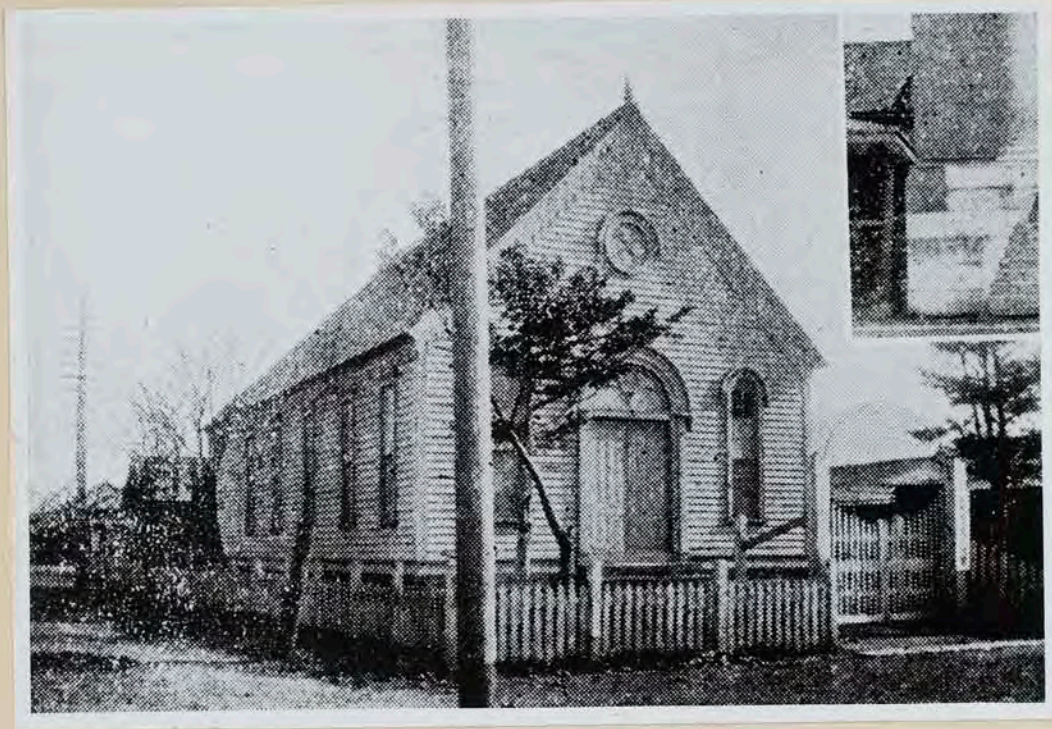
高木 玉太郎



札幌農學校信徒團

1879年(明治十二年)頃

	廣	黒	佐	内	○
	井	岩	藤	村	
				<small>左</small>	藤
山	高	出	大	藤	田
下	木	田	島		
中	太	柳	内	宮	足
島	田	本	田	部	立



札幌獨立基督教會堂全景

札幌市南二條十二番地

1882年(明治十五年)一月八日

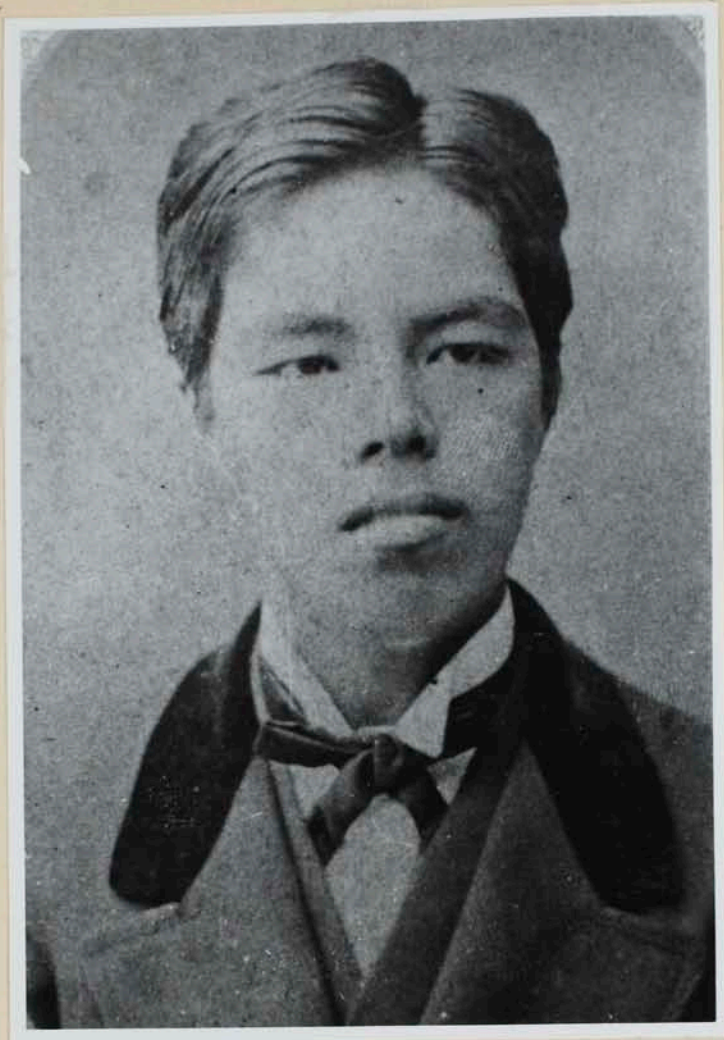
奉獻堂式舉行



1883年(明治十六年)頃

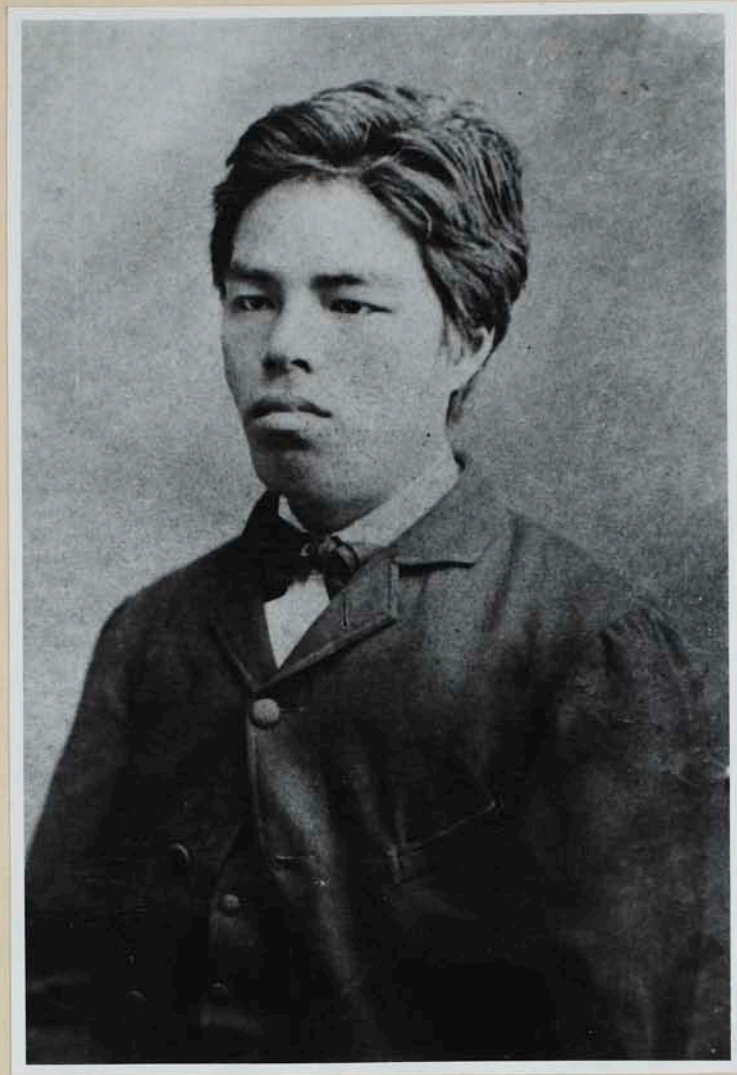
同信の親友

内村鑑三
宮部金吾
新渡戸稲造



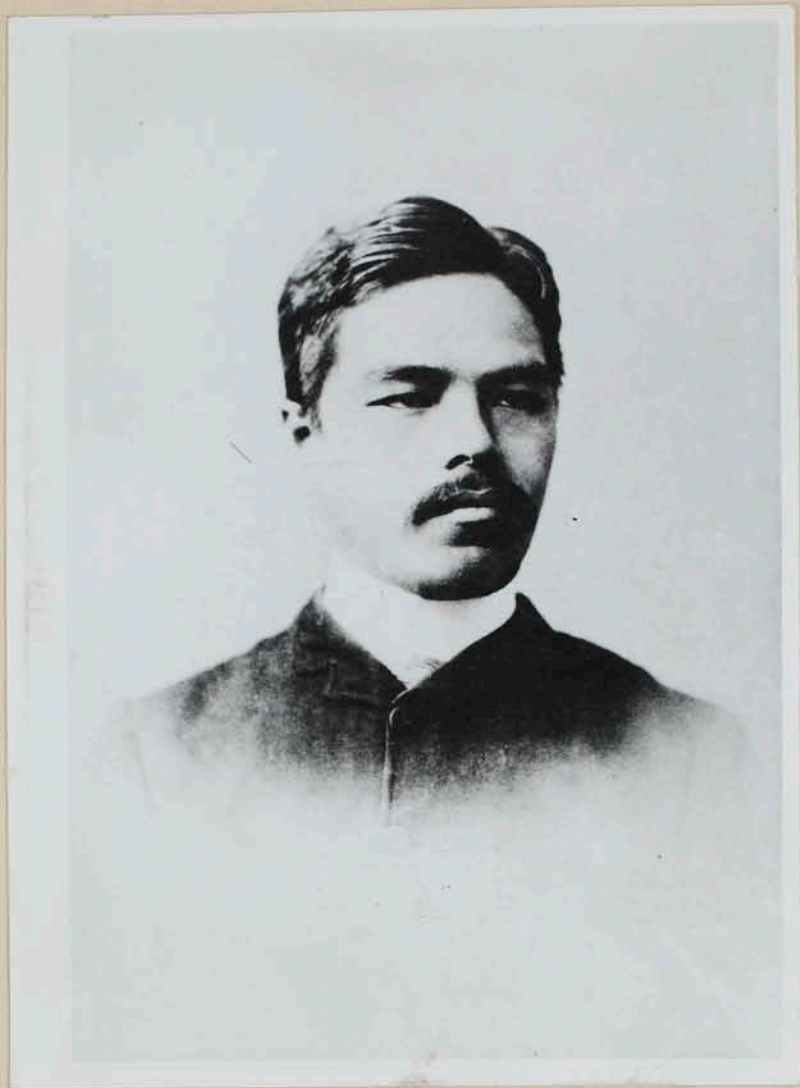
1883年(明治十六年)廿三歳頃。

農務積白水産課勤務時代



1882年(明治+六年)頃

二十三歳時代



1887年(明治二十年)

アマスト大學

在學時代

(二十七歳)



水産傳習所第一回卒業記念，明治二十三年二月二十三日，東京日本橋區茅場町銀行集會所。（前より三列目，右から五人目が著者）

（1890年，三十歳）

前より三列 右より五番目 内村鑑三。



1892年(明治二十五年)九月、宮川、經輝氏に
 招聘され、大阪泰西学館の教鞭を執る。

大阪曾根崎村名外百世五番心住。

上図は翌年春の卒業記念の撮影ならん。

(三十三歳)

〇 〇
 内村 鏡三
 中村 利三郎
 藤本 孝作
 校長 宮川 經輝
 本因 一 郎



(弟義と母義) 生先村内の代時都京

1893年(明治二十六年)春 三十三歳。

藏原維郭氏の招聘に應じ、大阪
を去るに先だち京都なる岡田家
を訪ね近親に別れを告ぐる時
の記念撮影と推定せらる。

【註】 藏原維郭氏は先生ワボ
スレニ以て友

先生は熊本英学校(生徒二十
十名)に赴任なるニ三月には
京都に帰らる。



1892年(明治二十五年)十二月二十三日大阪にて
結婚せし静子夫人を伴い熊本に至り英学校に教
導役を執る傍ら近郊に託麻原の民家に住し机代
用の支那靴を使用して著述に従事せらる。

上図は當時の食生活と習み(頃の照撮影である。

(先生三十三歳 静子夫人二十歳)



熊本英學校時代 中列左より3人目著者、藏原惟郭

1893年(明治廿六年)晚春頃

大	藏
木	原
三	惟
三	郭





1900年(明治三十三年) 自七月廿五日
至八月三日
 第一回角筈夏期講談會(於女子獨立學校)

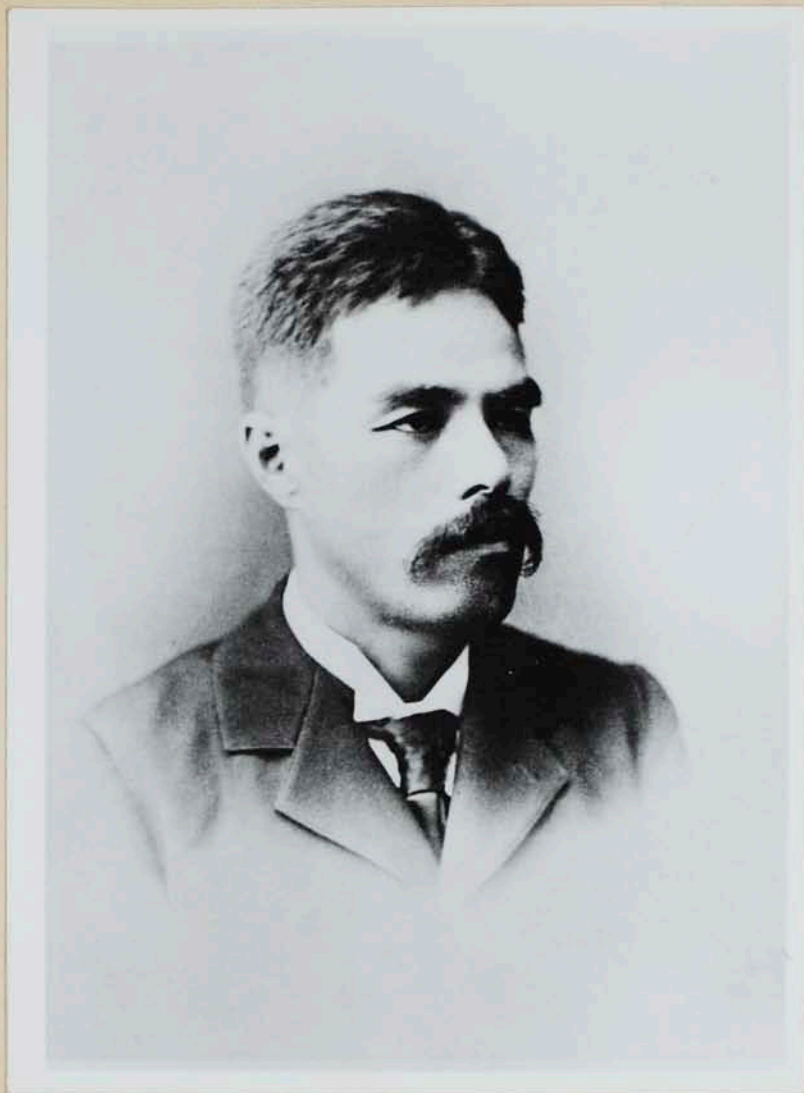
講師

内村鑑三(中興) 大島正健(西) 住谷天來(右)

會員

森本慶三、青木義雄、倉本愨三、
 黒木耕一、西沢勇志智、岡村誠之
 等八十餘名

「註」 此七月五日、東京獨立雜誌第七十二号にて廢刊
 其際内村鑑三郎、安孫子坂井、西川等の暴挙あり。
 九月「聖書之研究」第一号發行



1901年三月十日「無教養」第一号発行
同七月二十日理想団發起人として社会改良「雑誌」
同七月廿六日より八月まで第二回角等電報局の機会
を前等女学校に同僚 会長七十餘名、七時台(折袖)を別む。

1901年(明治三十四年) 謹談会後なる
十月十日 第一回札中罷傳道として働かる

具隆 三山島常磐の撮影せる寫眞



内村鑑三 宮部金吾

1901年(明治三十四年)十月第一回木
中見傳道の際、久し振りにて無二の親友
宮部金吾氏に翁、共に撮影せる寫眞

「註」 皇京の途に十月二十七日盛岡市、立寄り
馬車前清風旅館の一室に於て岩手縣下
花巻の信若(斎藤宗次郎、照井長臣、工
藤善太郎等)と初対面。



1901年(明治三十四年)十二月 日

萬朝報三千号記念撮影

黒岩田六内村鑑三幸徳秋水等

萬朝報は明治大正時代いかに特長を發揮せる日刊新聞

内村鑑三

明治廿九年冬黒岩田六氏に招聘され萬朝報に入社

筆名内村鑑三

明治三十一年四月二十三日辭任、爾來客員として警報の社文寄稿

明治三十六年十月九日非難主義の故に専任停職となりて其利を

共に退社、為ら東京社会雑誌編輯に専念す。



1902年(明治三十五年)五月二十一日

理想團小諸支部發會式後仁
光岳寺庭園にて記念撮影

内村鑑三、黒岩南六、小山太郎
小山英助等二十餘名



1902年(明治三十五年) 明治三十五年
七月五日

第三回角筈夏期講談會 (於女子和洋館)

講師

内村才三 大島正健 別所梅之助

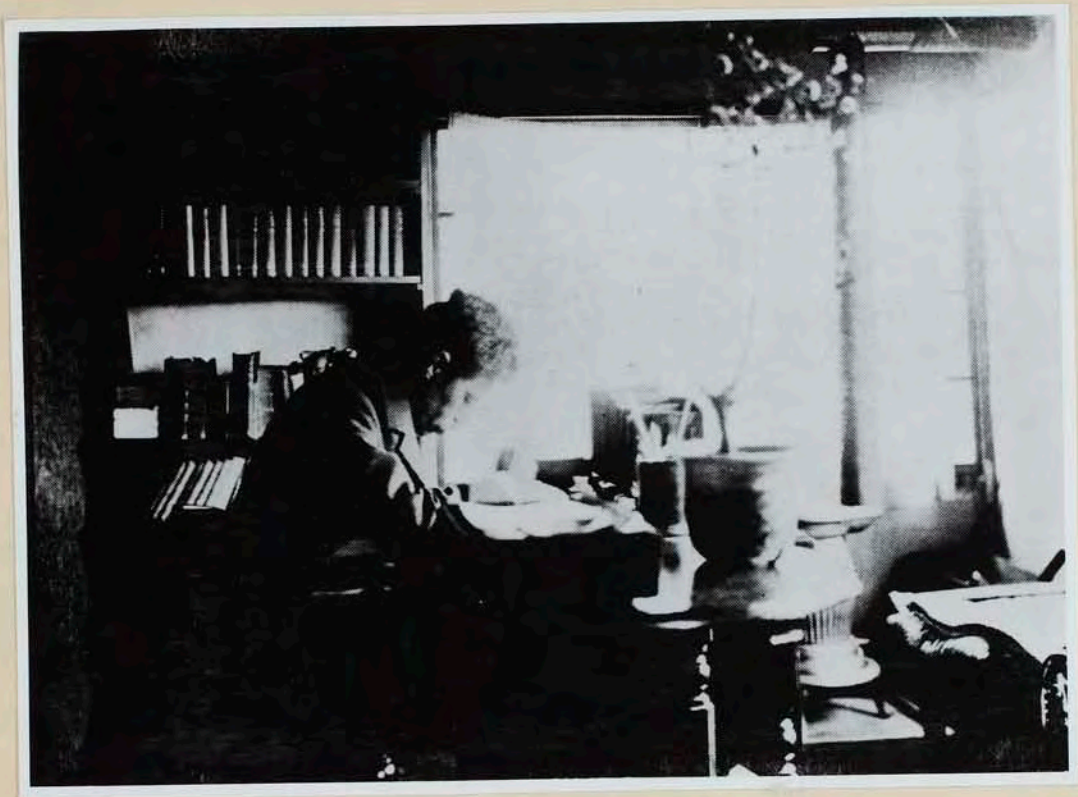
會員

淺野猶三郎、森本慶三、大賀一郎、倉橋惣三、小山内薫、結木齋、
海保竹松、太田十三四、齋藤宗次郎、有弟武郎、山岸壬五、黒木
耕一、長崎謙、望月面彌、齋藤行彦、内村誠之、根本益次郎、白井
為治郎、田中龍夫、西沢喬太郎、藤沢吾老等八十餘名。



白
竹
園
林

太村先生書齋の一部
室内に居る太村事務
長と令嬢ルツ子さん



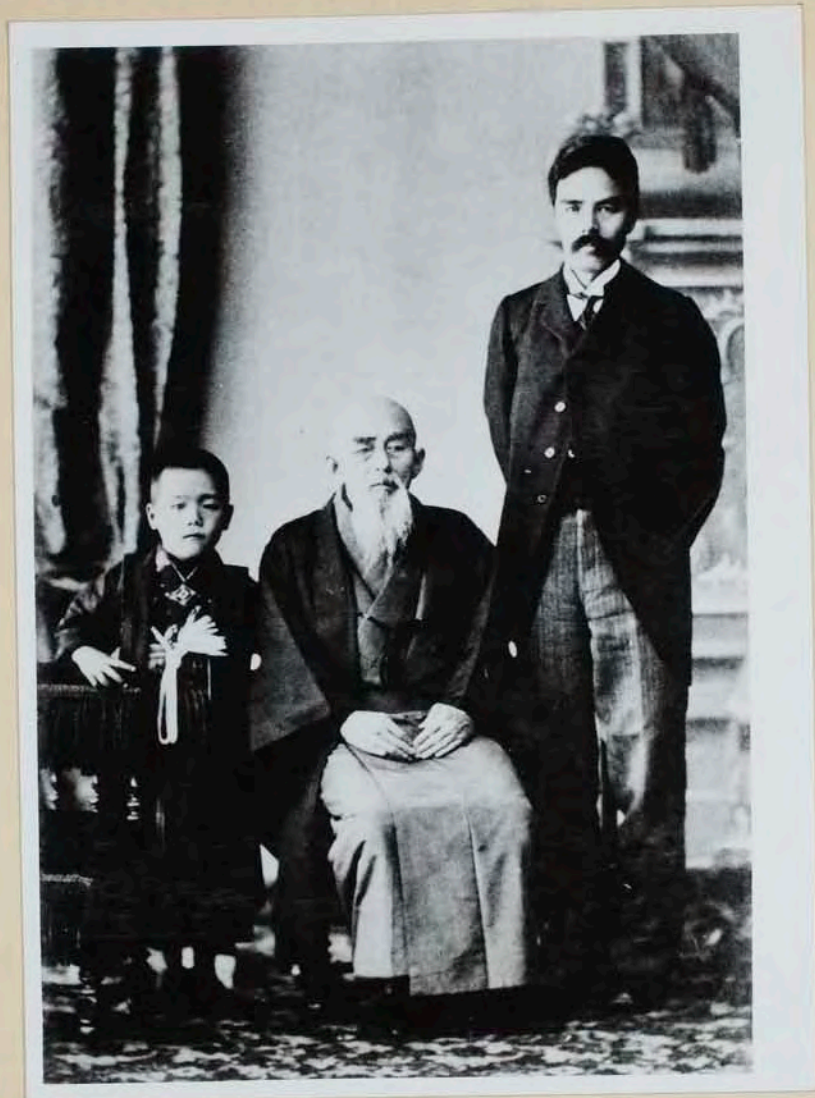
先生の労働中、書翰の答



1904年(明治三十七年)四月廿三日

福島縣栗野村伝道
 内村鑑三・青木義雄 以下名





1905年(明治卅八年)一月廿三日

父子孫三代

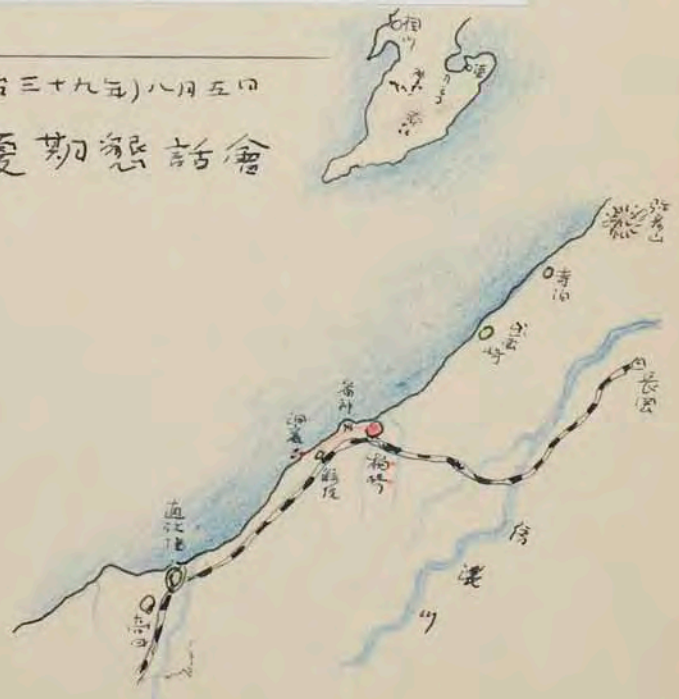
内村祐之
9.

内村鑑三
45.

内村宜之
74.



1906年(明治三十九年)八月五日
 木白崎教友会憂期懇話會





1907年(明治四十年)八月三日~七日

鳴濱夏期懇談會

海保竹松宅(開)

計四十二名

- | | | | | | | | | |
|------|------|-------|-------|-------|-------|------|------|-------|
| 津本貞一 | 海保竹松 | 三須兵三郎 | 根本益次郎 | 田辺虎九 | 高知屋辰治 | 米本助一 | 安井全治 | 長島教三 |
| 田中龍夫 | 久木忠作 | 吉田福治 | 花沢正二 | 井口嘉彦 | 柴田豊造 | 望月直弥 | 中村常三 | 藤沢普吉 |
| 大原恒藏 | 水野俊郎 | 清水高平 | 根本寧 | 木村亨三郎 | 柴田豊造 | 柴田豊造 | 柳池信 | 渡辺英三 |
| 柴田ウキ | 内村 静 | 内村 初之 | 内村 鑑三 | 内村 鑑三 | 布施テイ | 花沢テイ | 作田テル | 小田代丸人 |
| | 海保アヤ | 内村ヒ子 | 内村 初之 | 内村 鑑三 | 布施テイ | 花沢テイ | 作田テル | 行木夕力 |





1908年 (明治四十一年) 二月

口鳥濱 九十九里海岸散步

(左回参照)

内	海	某
村	保	
先	竹	
生	松	



1908年(明治四十一年)秋
内村家柏木新宅(左方)



一九〇八年
 (明治四十一年) 六月六日

圖書之研究 第百號

感謝會參列者

東京淀橋區柏木九百十九番

内村即内ル於之撮影

七十六名

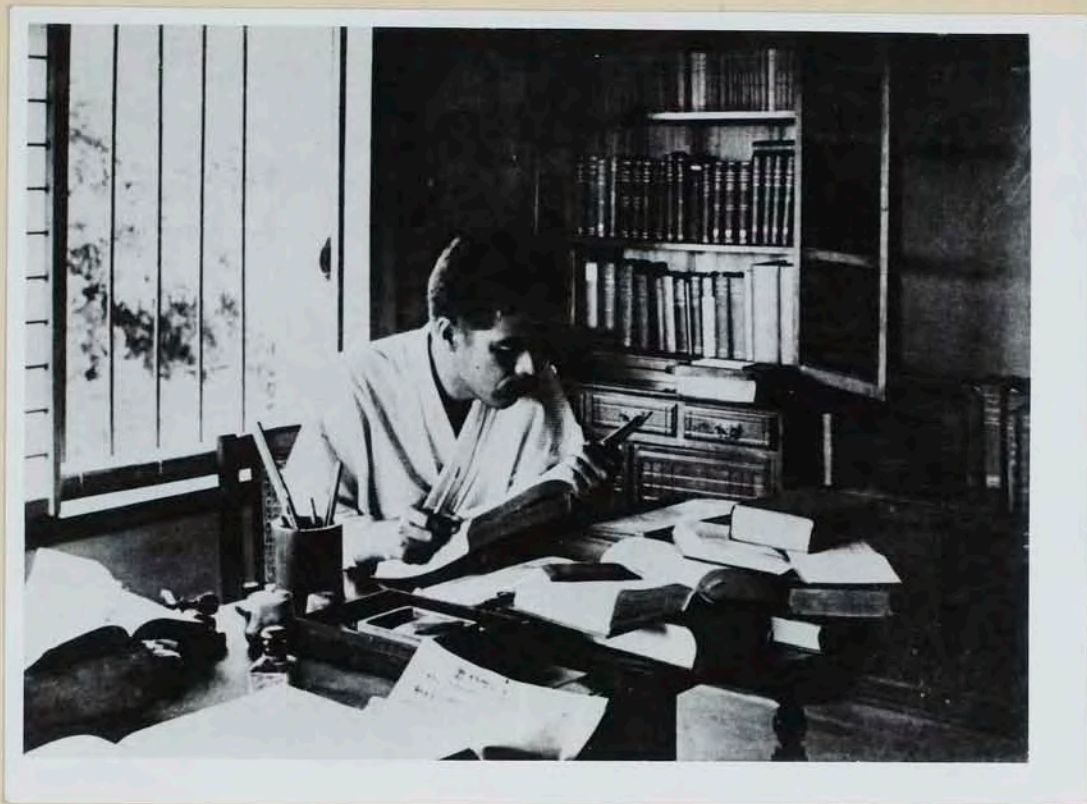
水野鐵太郎
 長沢英郎 橋川巖吉
 村田二郎 水野隆宗 渡辺三造
 山崎健雄 尾崎嘉郎 木村九
 久米要治 神林博道 原須小次郎
 小野一 伊藤作三 池内仁之助
 村山登喜 松村己之吉 三浦順八
 柳悦之 渡辺英三 田崎安榮
 高田長助 三浦兵三郎 高橋義一
 山本孝且 本多忠治 田中玄法郎
 渡辺隆造 三田留紀
 津田要五 小田真助
 水野豊彦
 星野廣幹 小野保之
 入間田信 若尾主幹 茂田甫 田中純夫
 西田友郎 那須夫人 志賀直哉 藤澤清太郎
 喜多喜和 三上夫人 曾乃三三 大塚一郎
 村上賢造 三上三三 石谷七平 森多自昭
 河津仙一郎 内村先生 高橋英人 藤野芳江
 柴田三三 内村多子 山内金平 奥田大平
 高橋五郎 今有富子 田島貞子 内村節之
 村山由麻 今井信子 柴田信子 花沢美子
 渡辺春寛 内村夫人 行木大介 有藤貞子
 井上喜徳 津井悦三郎 高橋想三



子をな澤吉トスニガルオの生先は女少るて立に後背 養休の腹山須那生先村内
Mr. Kanzo Uchimura resting at the foot of Mt. Nasu.

1909年(明治四十二年)七月廿日
杉木梁 那須岳山腹の休養
(吉沢女と子同伴)





1909年(明治四十二年) 初秋迄

柏木書齋生活
(四十九歳)



1910年(明治四十三年)四月十五日

花巻傳道

{予(41才)が昨年三月長女(九才)を失い、内村先生に慰められた}

花巻旧城内 齋藤宅(佐藤昌介博士の譲り受け)にて集会後撮影

先生
十八日帰京の上
二十日上下市
中野寺(金堂堂々)
内村先生の晩年
春巻と小泉邸同併。

伊藤 五十子
大関 信子
高橋 信子
小田代 八人
内村 三先生
池田 政代
池田 政子
池田 政代
齋藤 五十子

梅野 頼次郎
齋藤 忠兵衛
工藤 善太郎
荒浜 幸吉
照井 英臣乳
齋藤 家次郎
小原 八五子

先生は、私に傳道してくれ、
その上、
立派な祈りを、



A SMALL MEETING AT MIYUCHIMURA'S. 集小、民村内ル多於ニ邊海賀須本村濱鳴上

1910年(明治四十三年)七月

鳴濱傳道

千葉県山武郡鳴濱村本須賀九十九里
海辺の林中に於て野外集會を開催す。



春藤与市郎
小村祐之

内村鑑三先生

田中龍夫

海保竹松

穴戸元平

海保節子



1910年(明治四十三年)十月十五日

井口喜源治研成義塾十二年感謝祝賀會

内村先生祝意を講せられ予の感想を述ぶ。

出席者百十餘名。午后附近の梨畑山葵畑を観る。



此夜は先生を始め
海保、木村、藤原等
数名と共に相馬家へ泊る。

翌十六日早朝余は内村先生に
伴われ有明山麓の里道を途々
物語りながら散歩となる。

先生五十歳



1910年（明治43年）秋と推定せられる内村三郎の家族
左から祝之，ルツ子，静子，女中キヨ

明治四十三年頃の内村家の家族

	内			
	村			女中
	先	る	夫人	キヨ
祝之	生	つ子	37	
14	50	17		



1910年(明治四十三年)頃と推定

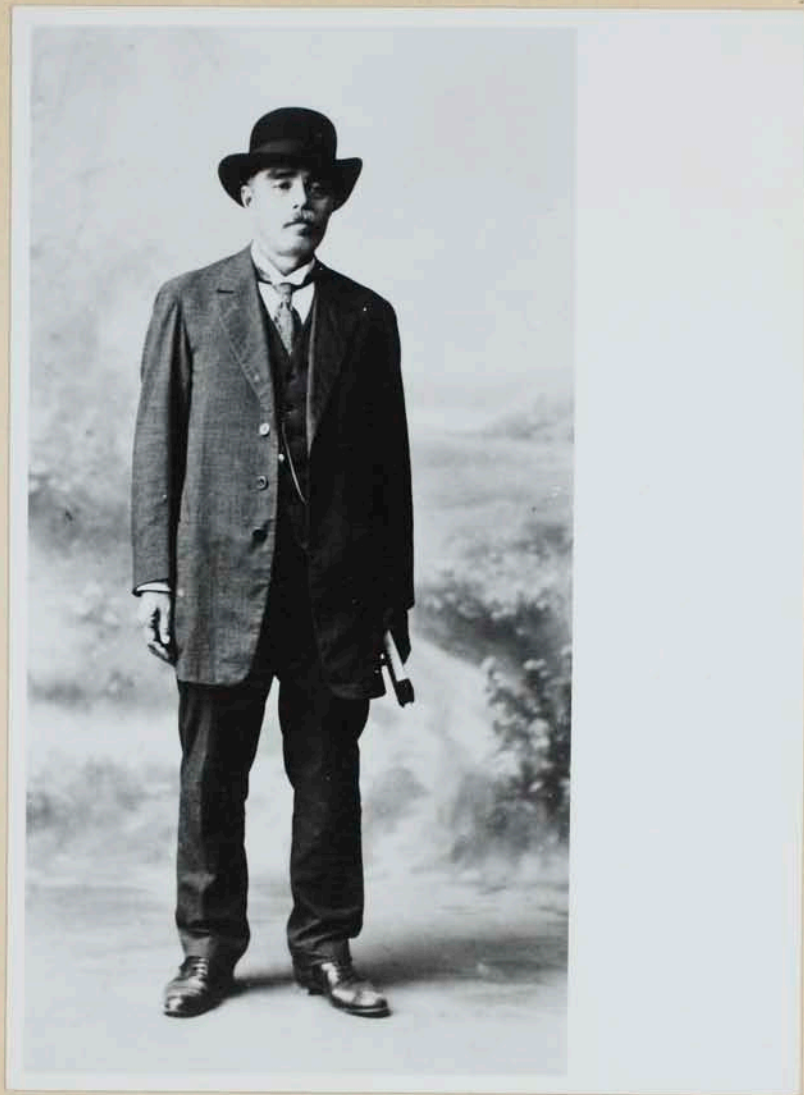
千葉縣大網町
花澤正二氏庭にて撮影



1910年(明治四十三年)十二月

戸山原 新礼壽の森 大樹の下に立てる

大木 鑑三 (五十五歳)



一九一二年
明治四十四年
坂之推定



1911年(明治四十四年)

大
村
路^ろ
得^と
子
(六
歳)



第一高等學校校長新渡戸稻造の紹介に

なる一團の學生等 1909年(明治四十三年)七月廿九日

第一回集會を開く。『柏會』と命名す。其後集會を続け

1911年(明治四十四年)秋、江木 翁 館にて内村先生と共に撮影

- | | | | | | | |
|------|------|------|------|------|------|-----|
| 黒木三次 | 黒木八尺 | 勝桂之助 | 塚本虎二 | 黒崎孝吉 | 金井清 | 樋口實 |
| 椎津盛一 | 藤井武 | 三谷隆正 | 森戸辰男 | 藤田康三 | 川西安三 | |
| 武富時敏 | 三邊金藏 | 内村鑑三 | 前田多門 | 石川鐵雄 | 笠岡宗雄 | |

(岩切重雄、田島道治
外一名却序)



1912年(大正元年)四月廿二日

長野県 下諏訪町「聖書研究」讀者會

(内村先生が2名)

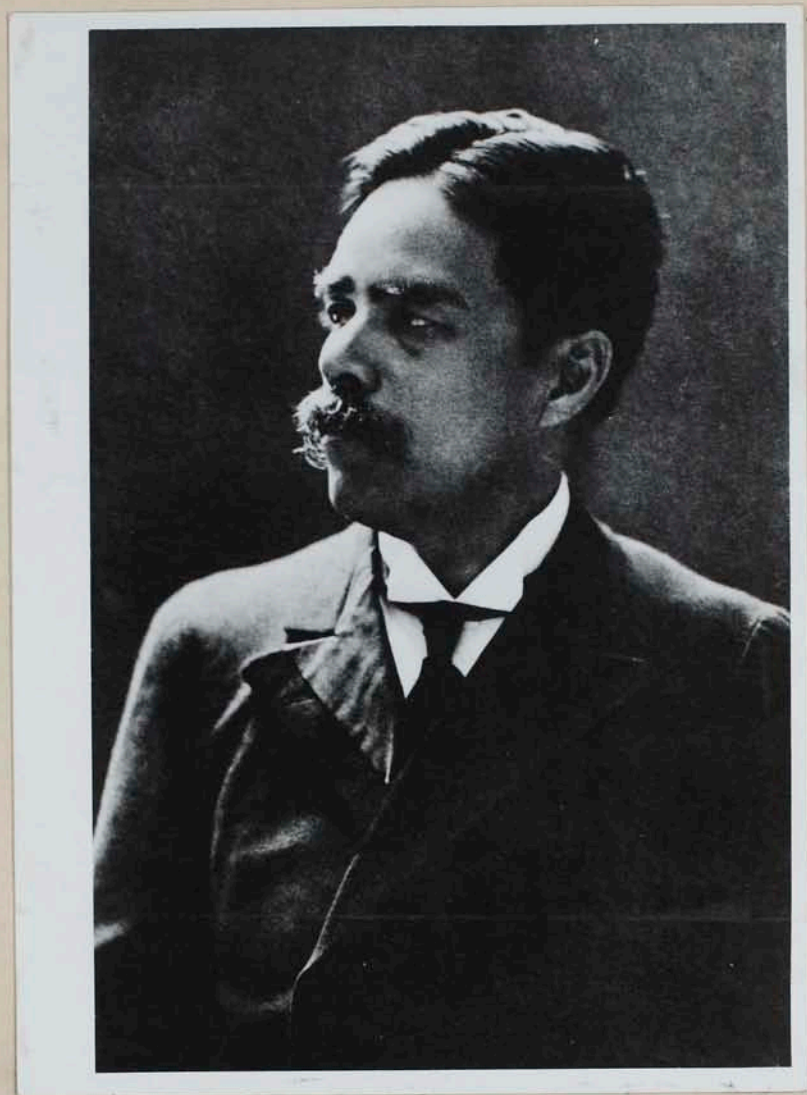




Our Work-shop, inside view.

部内の室働勞

1912年(大正元年)
木白木、労働室(書齋)内の
内村鑑三先生
(五十二歳)

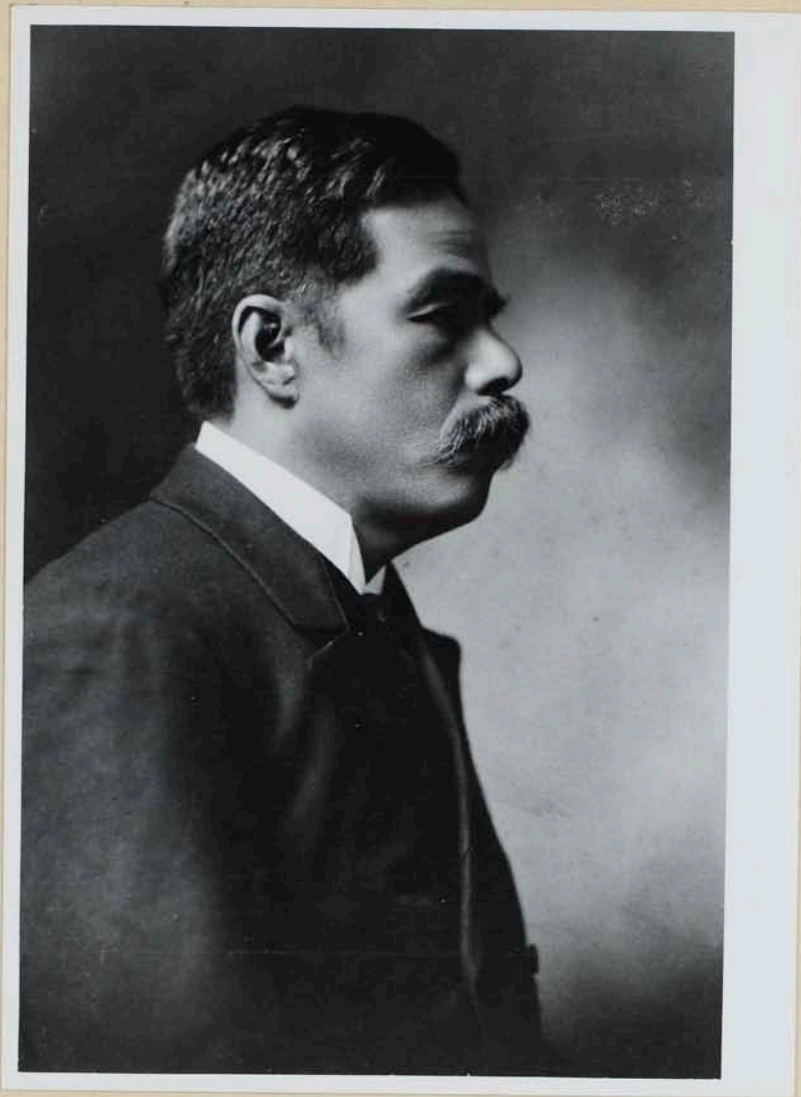


1912年(大正元年)十月

第三回木下晁傳道

(三島常晴撮影)

木下先生肖像五十二



1912年(大正元年)十月
第三回札幌傳道
同前

此時内地諸地方代表の
教友多数隨行す。



1912年(大正元年)十月九日出發二十五日停京
第三回 札幌傳道

大村才鑑三、宮部金吾、黒岩四方、道、
其他各地代表 森本慶三(岡山)、津山、海保、竹
松(千葉)、青木義雄(石木)、木村光(新潟)、淺野
猪三郎(東京)、山岸五(東京)、中田信藏(東京)、佐藤仁
藏(宮城)、齋藤宗次郎(岩手)、小田代九(花巻)
淺見仙作、齋藤新次郎、市川春松、佐藤嘉平治
並に竹山新報社、独立教會、森本重吉、三島常
以下四十餘名 (寫眞)

各自の寢室に入る。
し、將來の傳道はつぎ先生より共に語り祈りて復
光を浴び、今回札幌傳道と追習、感謝
一、歸途津輕海峡渡船、皆連絡船甲板、上月
鮮魚試食等

一、石狩川鮭漁實地見物、並に石狩川水質

一、大森子田農場見學、
協同室吉野約、
傳道に就ての
教會、教友會
一、札幌獨立基督教會
晚餐會、

一、札幌本學吉野宅
一、市内講演會、
一、早天祈禱會、
於て歡迎園遊會、
一、札幌一七、即ち

一、内村先生の教團より羅馬書講演、
此期附録

經過の梗概

